

# 令和3年度 福井県立金津高等学校 学校関係者評価書

## 協議題

- ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策、向上策が適切かどうか。
- ・その他

## 御意見を伺った方々

学校関係者評価委員会：あわら市教育長（本校育成会代表）、芦原中学校長、金津中学校長  
地域住民代表、同窓会長、PTA会長、PTA副会長

## 御意見

### ◇教育課程・学習支援

- 大学進学を見据えた教育課程を研究することを重点項目に掲げているが、地元の大学から教員を招いたり訪問したりすることはあるのか。
  - ・進路指導部を中心に、大学のオープンキャンパス参加の案内等取り組んでいる。コロナ禍では、オンラインで参加する生徒が多い。
- コロナ関連で自宅待機する生徒に対して、どのような支援をしているか。
  - ・学びを止めないようにICTを活用してリモートで授業を提供する他、学習アプリを活用して各自が弱点を補えるよう工夫している。学習アプリの教材や動画等は学習意欲の向上にも効果がある。
- 大学進学だけが目的とならないように目的意識をもって学んでほしい。また、何のために学ぶのか、その先を見据えた教育が必要であり、自分の夢や将来を語るような主体性のある生徒を育ててほしい。新学習指導要領における探究活動を通してこのような力を身に付けさせてほしい。
  - ・本校での探究活動はIPT（Intellectual Power Training）活動として、伝統的に実践している。第3学年においては、大々的に課題探究発表会を実施している。今後も引き続き実践内容を研究し、探究活動を充実させていく。
- 探究活動には注目している。
  - ・本校では、1年次よりIPT活動として探究活動に必要な力を身につけるための活動を行っている。その集大成として、3年次に課題探究発表会を行っている。1年次の活動から、活動内容を公開していきたい。

### ◇生徒指導

- 中学校で所属していた競技の部活動が、高等学校にない場合がある。新規競技の部活動を増やすことについてどのように考えているか。
  - ・生徒数および教員数を鑑みて、運動部15部と文化部10部での活動が行われている。また、県内唯一のカヌー部などの本校特有の競技種目もあり、他校にはないチャレンジができる環境がある。中学校からの活動種目継続については、できるだけ考慮しているが、現状では適正数と考えている。
- 部活動の活動内容、方針や生徒の悩みへの対応についてどのような体制をとっているか。
  - ・県内トップレベルの部活動から週に一度を楽しむ部活動など、25部の活動が用意されている。入学時には部活動紹介を行い、新入生に対し各部部长が活動内容をPRし、1週間の見学体験期間を設けて入部登録を行っている。
  - ・養護教諭や相談室の教員に相談するなど、気軽に話せるような環境を整えている。
- いじめの対応については、どのような対策を講じているか。
  - ・定期的なクラス担任との面談、教育相談室のカウンセリング対応、毎月のいじめチェックシート、こころのチェックシートを中心に、一人ひとりの細かなサインに教職員全体で気づける対応に努めている。人権・モラル教育の推進や、外部や保護者との連携により、現状にとどまらず、いじめの未然防止、いじめの撲滅に向け、常に改善策・向上策を講じていく。
- 校則の見直しについてどのように考えているか。
  - ・生徒の意見をピックアップし、要点を生徒会が議論して内容を精選して積極的に取り組むようになってきている。昨年度も、生徒会を中心に制服のあり方を考えるシンポジウムを行い、生徒自身が考え

る環境を提供している。頭髪についても、金津高校の生徒としてふさわしい髪型について生徒会が話し合いをもつなど、積極的に議論している。

#### ◇進路指導

- コロナ禍以降、生徒のオープンキャンパス参加の状況はどうか。
  - ・大学に向く参加はほとんどなくなり、多くはオンラインで参加している。
- 大学入試対策講座とはどのような取組か。
  - ・文系と理系に分けて予備校の講師を招聘し講義を開講している。内容は国公立大学を目標にした個別試験対策や、大学入学共通テスト対策が中心である。2年生対象に実施する講座は、基本的な内容の確認の他、大学入試レベルの発展的な内容にも挑戦している。生徒に刺激が与えられるような講座となるように企画している。

#### ◇中高一貫教育

- あわら地域中高一貫教育校をどのように充実させていくのか。
  - ・令和4年度から連携クラスの新たな取組をスタートさせる。中高の教員が連携し、より一層中高一貫教育の発展のため取り組んでいく。
  - ・高校で実施しているサマーハイスクールなどの取組についても、探究アドバイザーの助言をいただきながら、県教委の協力のもと強化していく。また、高校の連携クラスの授業内容を今まで以上に充実させる。

#### ◇保健管理

- 様々な事情で転学していく生徒が少なからずいると聞く。そのような生徒に目を配って卒業まで支援をお願いしたい。
  - ・今年から、各学校に対して専門のスクールカウンセラーが配置されている。教員はもちろんだが、スクールカウンセラーとも協力しながら気がかりな生徒を引き続き支援していく。
- コロナ感染症対策が進んでいると思うが、具体的にはどのように指導しているのか。また、教員はどのように意識して取り組んでいるのか。
  - ・様々な根拠をもとに対策や対応についてはマニュアル化できており、判断を迷うケースについてはQ&Aを作成するなど教職員と情報を共有している。マニュアル化することで教員間の意識の差をなくし、統一感をもって対応している。

#### ◇開かれた学校づくり

- HPやPTAだよりに掲載する生徒の写真について、個人が特定されることに配慮して写真の掲載を控えると、文字ばかりのレイアウトになってしまうが、どのように工夫しているか。
  - ・写真掲載については、年度当初に各生徒・保護者に対して許可を取っており、掲載してほしくない生徒については事前に把握している。HPに記事をアップロードしたり、PTAだよりを発行したりする場合は、該当する生徒を十分にチェックした上で掲載している。
- 小学校や中学校に比べて、高等学校の授業参観というのは敷居が高く感じる。敷居を下げる努力をしてほしい。
  - ・現在は、学校公開週間を年に2回1週間ずつ設けている。特にこれらの期間でなくても事前に連絡してもらえばいつでも授業の様子など参観可能である。是非参観していただきたい。

#### ◇図書指導

- 生徒に、例年に比べて、いくらか朝読書の意識低下がみられる。
  - ・朝読書の意義を再度認識させ、初期指導を丁寧にする事で朝読書の意識向上につなげていく。
- 朝読書について、電子書籍は許可しているのか。
  - ・学級文庫を各クラス40冊程度準備して、基本的にはその中から書籍を選んでもらっているが、好きな本を読んでもらってもかまわない。電子書籍については、経費等の問題もあり、現在検討していない。

◇自立支援

- 手帳を持たせることは良いことで、生徒自身がスケジュールを管理し、課題を見つけることは自立につながる。ところが、活用するのは最初だけで使いこなせていない。そもそも物事に対して計画を立てることが難しく、振り返るためにため込んだテストを見直すこともできていない。定期的にこれらのことを指導して行ってほしい。
- ・今後、生徒にはますます自発的・自律的に学校生活を営む力が求められるようになる。3年間の高校生活全般をとおして、根気よく生徒の自立を支援していく。

◇その他

- 業務改善は進んでいるのか。
- ・部活動の大会前等、繁忙期には勤務時間が増える教員もいるが、年間を通して、学校全体としては超過勤務の時間は減ってきている。

◇全体（総括）

- 学校評価書の成果と課題およびそれらを踏まえた今後の改善策、向上策は概ね適切である。
- いじめへの対応については、全教職員が一丸となって対応する体制を整えていただきたい。

◇学校関係者評価を踏まえた今後について

- ・今年度の学校評価の結果および学校関係者評価に基づき今後の課題について改善・工夫を行い、次年度のスクールプラン、教育方針・教育目標に活かしていく。